

中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	「日本だから」できる国際協力・JICA から学ぶ信頼を得る仕事への向き合い方
報告者	国際経営学部国際経営学科 1 年 氏名:奥津ひなた
調査日	2022 年 12 月 14 日(水) 15:00 ~ 17:00
調査先	JICA 本部(竹橋)
担当教員身分・氏名	山田恭稔 教授
CVS 担当	金子さゆり、小林礼人
授業科目/学部企画名	訪問調査「企業訪問」
参加学生数(学年)	1 年生 12 名
調査趣旨・目的	国際協力に関する業務について学び、JICA 職員の経験談の聴講・質疑応答を通して、キャリア・パスに対する意識や可能性を考える。
調査結果	<p>本企業訪問では、「国際協力」とは何か、国際協力に関わる機関や企業の全体像を学習し、学生がそれぞれ興味のある JICA の活動について調査・グループワークで共有し発表する事前学習を行った上で JICA 本部に訪問させていただいた。</p> <p>訪問当日は民間連携事業部 企業連携第一課 課長補佐の加瀬晴子氏より、3 つのポイントに分けてプレゼンテーションをしていただいた。まず 1 点目は「途上国とのかかわり」である。クイズを通して学生個々人のこれまでに培ってきた「途上国」に対するイメージや問題意識を問い、実際の「途上国」に関する基礎情報や直面している課題について示していただいた。つぎに 2 点目となる「JICA の取り組み」では、「信頼で世界をつなぐ」という理念の下で、ほかの国でもない「日本だから」できる支援・信頼関係にこだわった JICA の国際協力アプローチの事例を教えていただいた。最後に 3 点目「加瀬氏と JICA の活動」では、加瀬氏が JICA に入構したきっかけや経験したこれまでの活動、主に現地フィリピン事務所での支援業務の実体験をもとに得た学びや当時の心境をお伝えいただいた。これまで国際協力や JICA が行う支援活動の実態を掴み切れなかった学生たちにとって、加瀬氏の経験談は刺激的なだけでなく、JICA そのものへの理解を深めるものとなった。プレゼンテーション後の質疑応答では、女性職員のキャリアパスについて、飢餓とフードロスの課題とその関係について、相手が持つ常識・価値観を体験する日常レベルの「異文化理解」について、信頼の得方について、SDGs が謳われる現代においてどの目標達成を最も重要視するべきかなど、幅広いジャンルの質</p>

問に対してご回答いただいた。

本企業訪問で、JICA と職員の国際協力に対する強い信念こそ、プロジェクト達成の糧となっていると考えた。フィリピン-ミンダナオ和平実現の見込みが立たない混乱した世情で追加人材投入を決断した JICA の意志と、現地での支援を続ける職員の堅実な活動によって、「日本の支援」はフィリピンに対して、より堅固な信頼を構築させた。国際協力の業務に携わる際に限った話ではなく、一つのことを成し遂げるためには、いかなる時も今その時やらなくてはいけないことをこなすこと、つまり継続する実行力と仕事に対する真摯な対応が重要であると改めて実感する機会となった。その点で、本訪問では学生たちにとって、JICA の業務内容を知ることやキャリアプランを考えるだけでなく、社会に出るうえで重要な考え方も学ぶきっかけとなった。



▲加瀬晴子氏(前列左から3人目)、山田恭稔教授(同4人目)、参加した学生たち